

『1 単位時間における指導過程の見直しと質の向上』

～授業改善推進チームを効果的に活用した実践～

滝川市立滝川第一小学校 学級数 15 (校長 栗井 康裕)

滝川市立滝川第三小学校 学級数 15 (校長 西田 篤人)

I 実践テーマの趣旨

本校では、平成 30 年度から北海道教育委員会「授業改善推進チーム活用事業」の指定を受け、滝川市立滝川第一小学校、滝川市立滝川第三小学校に配置された授業改善推進教員が、ティーム・ティーチングで授業を行い、各校の授業改善を図っている。特に重点としている取組として、授業改善推進チームが作成した「滝川市授業改善チーム型基本授業スタイル」を提案し、全教職員が一体となって「課題提示」「対話的活動」「振り返り」を位置付けた 1 単位時間の指導過程を改善し、授業スタイルの構築を組織的に推進している。

II 実践の概要

1 「滝川市授業改善チーム型基本授業スタイル」の作成

日常の授業のベースとなる「滝川市版基本授業スタイル」を作成し、市内小・中学校で共有した。

また、今年度は、児童生徒の学びを充実させるため、授業と家庭学習を組み合わせた基本授業スタイルを作成し、市内小・中学校へ提案した。

毎月、授業改善推進チーム会議を開催し、道教委が作成した「情報共有シート」を活用することで、取組状況の把握や翌月の重点や手立てについて協議し、授業改善の促進を図ることができた。

2 1 単位時間の指導過程の改善

(1) 「学習課題」と「まとめ」の一体化

本時のねらいに正対した学習活動を位置付け、評価規準との関連を図るための指導計画を立案し、実践することで、1 単位時間における授業のねらいを明確化させた。

また、推進チームから板書構造を提案したことで、学習過程が整理され、改善が図られた。

(2) 対話や交流時間の設定

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を実現させるために、1 単位時間のタイム・マネジメントを全教員が意識するための「基本授業スタイル」を作成し、「対話的活動（学び合い）」の位置付け、「振り返り」によるメタ認知、さらには次時の見通しにつながる「学びの整理」の時間の確保を徹底した。

(3) 積極的な ICT の活用

タブレットを活用し、教材を視覚的分かりやすく提示したり、児童が調べ学習を行ったりするなど効果的な学習活動を積極的に取り入れた。

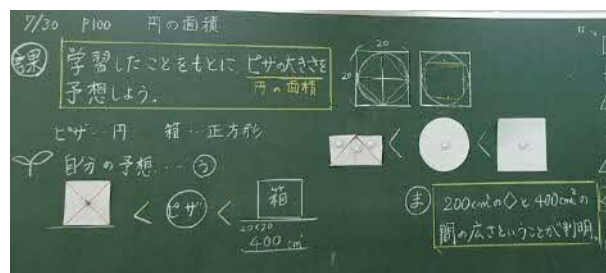
また、推進チーム教員が授業で機器操作のサポートを行ったり、「推進チームだより」で「SkyMenu」の機能を紹介し、活用促進を図ったりする等、授業を質的に向上させることができた。

III 実践の成果と課題

- 日常の授業改善を継続して行うことで、1 単位時間のタイムマネジメントの改善が図られ、児童の学力の向上が図られた。
- 授業改善推進チーム教諭が初任段階教員と事前・事後の打合せを通じたメンター研修を行うことで、初任段階教員の授業力向上が図られた。
- ICT の効果的な活用は、今後校内研修等を通じて、授業改善を図る必要がある。

滝川市授業改善推進チーム型 基本授業スタイル ～1 単位時間の授業展開例～			
過程	各過程の役割	教師の働きかけ	チェックポイント
導入	子どもが何を、どのよう に学ぶかを 提示すること ができる。	◆ 本時の目標を達成するための「問題・学習課題」を、わかりやすく示す。 ○ 本時の学習課題を板書する。 ○ 課題解決の目標を示す。 ※教科によっては、問題、学習課題のどちらかのみを提示も考えられる。	□ 子どもたちにとって必要のある問題となっているか。 □ 本時のねらいに沿った学習課題となっているか。
展開	子どもが自 己の学習活動 に主体的に 参加すること ができる。	◆ 目標を達成するために、次の学習活動を適切に位置づける。 ○ 読む、書く、話す、聞く、動く。 ○ 一人で考えたり、発表したりする。 ○ ペア、グループ、全体での話し合いをする。 ◆ 本時の学習活動を通して、児童の学びを促す。 ○ それぞれの考えについて、共通点や相違点を挙げて話し合う。 ○ 考えがまとまらない場合は、再度話し合う機会を設ける。	□ 学習活動の展開が明確になっているか。 □ 適切な時間配分となっているか。 □ 話し合いでは、1 人ひとりの考えの違いや、相違点を引き出して示しているか。 □ 話し合いの後、それぞれの考えを全体に広げる工夫や焦点を絞る工夫を行っているか。
まとめ	子どもが学 習の振り返 り、評価、 の振り返り をすることが できる。	◆ 時間に対する答えや学習活動に対するまとめを行う。 ○ 時間に対する答えや本時のまとめを板書する。 ◆ 学習の振り返りを行う。 ○ 本時の学習活動を通して、児童の学びを促す。 ○ 本時の学習活動を通して、児童の学びを促す。 ○ 本時の学習活動を通して、児童の学びを促す。	□ 時間に対する答えや答えで確認しているか。 □ 本時のまとめ、子どもの考えや発表をまとめたものになっているか。 □ 本時のまとめの振り返りに対して、児童の学びの振り返りを促しているか。 □ 評価を踏まえ、児童の学びの振り返りを促しているか。

【滝川市版基本授業スタイル】



【推進チームによる板書構造の提案】

授業改善推進チームの活動の成果を生かす取組

江別市立江別第一小学校 学級数 17 (校長 佐藤 直己)
江別市立江別太小学校 学級数 18 (校長 泉山 浩幸)
江別市立上江別小学校 学級数 22 (校長 松井 卓)

I 実践テーマの趣旨

江別市の授業改善推進チーム活用事業配置校である3校においては、各校の授業改善推進教員が1週間を単位として同一の学校に勤務し、当該校の教員とティーム・ティーチングによる指導を全学級の国語科及び算数科の授業で実施するなど、学力向上に向けた取組を行っている。

今年度は本事業の最終年度であり、これまでの取組を総括するとともに、取組の成果を生かす実践を進めてきた。

II 実践の概要

1 授業改善につなげる主な取組

(1) 授業づくりに係る打合せ時間の確保

可能な限り学年との打合せの時間を確保し、授業改善推進教員と各学級担任と一緒に授業づくりを行った。

(2) 「STEP」の発行

毎週末に授業改善の視点をまとめた通信を発行し、授業で実際に見られた優れた指導方法や指導技術、改善点等について共通理解を図った。また、これまで当該校のみ配付していたが、地域全体の学力向上を図るため、令和2年度から江別市内の全小・中学校に配付した。

(3) 授業改善アンケートを基にした検証改善の取組

授業改善の取組の成果と課題を検証し改善を図るため、中期的なスパンで年に3回、授業改善アンケートを実施した。「学習環境」「学習規律」「授業展開・指導技術」「指導体制」「家庭学習」の項目ごとにアンケートを実施するとともに、重点的に取り組む項目について分析し、授業改善に活用した。

2 各年度の取組の重点

3校それぞれの課題が、概ね同じ内容であったことから、各年度の取組の重点を設定し、授業改善の視点について各学校において共通理解を図ってきた。

【取組の重点】

平成30年度	学習規律	○ノートの使い方や書く内容
	授業展開・指導技術	○学習の流れが見える板書構成の工夫
令和元年度	学習環境	○ICT機器の活用など教材や教具の工夫
	授業展開・指導技術	○調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる工夫
令和2年度	授業展開・指導技術	○多様な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問等の工夫
		○まとめや振り返りの時間を確保し、学習内容の定着を図る指導



【推進教員と学級担任との打合せ】



【授業改善の視点をまとめた通信】

項目	観 点	低	中	高	全 体
学習環境	授業時間外、待ち時間や休憩時間について	3.25	2.50	3.50	3.08
	ICT機器の活用など教材や教具について	2.75	3.00	3.25	3.00
学習規律	学習の態度、姿勢、服装、食後の仕度や目の保養など、学習の姿勢について	2.75	2.75	3.00	2.83
	ノートに書くことや書く内容など、学習の姿勢について	2.75	2.50	2.75	2.67
授業展開・指導技術	授業の展開や指導方法を工夫することについて	2.50	2.75	3.75	3.00
	全体的な授業の質を高めることについて	2.75	2.75	3.25	2.92
指導体制	学習活動の方法や内容に合わせた学習指導（一斉・グループ・ペアなど）を実施していることについて	2.25	2.25	2.50	2.33
	多様な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問などについて	2.75	3.00	2.75	2.83
家庭学習	学習の進捗が見えるよう、学習状況を把握していることについて	2.50	2.50	3.00	2.67
	学習で困ったことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる工夫について	2.25	2.75	2.50	2.50
まとめ・振り返り	学習活動の振り返り、学習の振り返りなどについて	2.75	2.50	2.50	2.58
	まとめや振り返りの時間を確保し、学習内容の定着を図る指導について	2.75	2.75	3.00	2.83

【授業改善アンケート】

III 成果と課題

- 授業づくりに係る打合せ時間を確保することにより、授業の改善点を質問したり、アドバイスを求めたりする教員が年々増えていった。
- 「STEP」を発行し、指導技術等を整理・共有することにより、マス目黒板を使用した板書の仕方やノート指導の充実、ICT機器の効果的な活用等、指導方法の工夫改善を図ることができた。
- 授業改善アンケートを基に、授業改善の重点を明確にすることにより、各校の校内研究や授業スタイルに沿った授業改善を効果的に進めることができた。
- 今後、教員の入れ替わり等により、重点指導事項等について改めて共通理解を図る必要があるなど、指導の継続性が課題となることが想定されるため、主幹教諭や教務部・研究部担当教員がメンターとなり、若手教員等を指導するなど、次年度以降も本事業の成果を生かす取組を推進する必要がある。

授業改善推進チームを効果的に活用した実践

伊達市立稀府小学校 学級数6 (校長 丸山 賢司)

I はじめに

本校では、令和元年度より、授業改善推進チーム活用事業の指定を受け、3名の授業改善推進教員と本校職員が連携しながら、「分かりやすい」、「楽しい」、「基礎・基本が身に付く」授業づくりを通して児童の学力向上に向けた授業改善に取り組んできた。授業改善推進教員には、授業に関する指導や助言だけでなく、様々なよい実践を広めるために、通信等で実践例を紹介する役割も担ってもらい、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだ。

II 実践の内容

1 指導方法や授業計画に係る指導助言

3名の授業改善推進教員が、年間10週程度来校し、ティーム・ティーチングによる国語科と算数科の授業を行っている。全学級担任と協働しながら授業改善を進めたり、児童一人一人の実態に応じた指導を行ったりしている。「令和2年度小学校教育課程編成の手引」に示されている授業づくりの基本の「5つの視点」を踏まえながら、学級担任と授業の進め方について打合せをしたり、他校の実践例や指導方法を共有したりして、指導方法や授業計画に係る指導助言を行っている。

2 改善ポイントを共有化するための通信の発行

授業改善推進教員が通信を発行し、授業改善のポイントやICTの効果的な利用方法、他校の実践について紹介することで、授業改善の手立てや指導方法を共有している。

3 学力向上に向けた授業以外の取組

全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト、伊達市学力テスト等の結果から、学校全体の傾向や各学級の課題等を分析し、授業改善の方策を検討している。また、児童が苦手としている学習内容の復習プリントを作成し、朝学習の時間等を活用して補充的な学習を進めることにより、学習内容の定着を図っている。

III 実践の成果と課題（成果○ 課題●）

- 学級担任と授業改善推進教員の打合せを行うことで、授業の進め方や指導方法について話す機会が増え、教材研究や指導方法の交流が活発になった。
- 学級担任と授業改善推進教員が連携して授業づくりを行い、児童の実態把握に応じた指導の充実を図ることができた。
- 授業改善推進教員の来校が3週間おきであるため、重点的に取り組む学習内容が来校期間と合わないことがあり、指導方法の検証ができなかったことから、授業改善推進教員と本校職員が電子メール等を活用して打合せを行うなど、指導の充実に向けた連携を図る必要がある。

授業づくりの基本の「5つの視点」

1	身に付けさせたい力を明確にした単元づくり
2	「ねらい」から「まとめ・振り返り」までの1単位時間のデザイン
3	全ての児童の学習を深める授業技術
4	全ての児童が落ち着いて取り組める学習環境
5	学びに主体性をもたせる家庭学習

【チーム共通の授業改善に向けた視点】

○他校の実践の紹介（国語）

① 興味や関心を高める

→学習課題に対して目的や必要性を感じている。

2年生の「おもちゃの作り方をせつめいしよう」の学習です。学習の最後に、おもちゃの作り方を1年生に説明するという活動を入れています。1年生でも分かりやすいようにという意識をもたせることで、分かりやすい言葉を使ったり、作る順序が分かるように工夫したり、効果的に絵を使ったりしようという意欲が高まっていました。子どもたちに相手意識や目的意識をもたせることが主体的な学習につながっていました。

順序を表す言葉の使い方や、絵と文章が合っているかなどをチェックし合っています。

② 見通しをもつ

→単元のゴールをつかんでいる。

5年生の「みんなが過ごしやすい町へ」の学習です。単元の導入の時に、学習の進め方を説明し、単元の目標や、ゴール、本単元で身に付けたいかなどを子どもたちに示しています。単元の学習計画を掲示し、授業の最初に本時が単元のどの部分で、何を学習する時間なのかを毎時間確認しています。

③ 振り返って次につなげる

→自分の学びや反省を自覚している。

2年生の「そうだんにのってください」の学習です。単元ごとに振り返りシートを作成し、ファイルに綴じて学校に保管させています。振り返りシートには、単元で学習することも書かれており、継続的に振り返りをさせることで、どの学習の時に、自分がどんなことを学び、どんな感想をもったかなどが蓄積されています。

【他校の実践についての紹介】

「主体的な学び」に係る
他校の事例紹介



授業改善推進チームを活用した学力向上の取組

森町立さわら小学校 学級数 8 (校長 後木 明生)

I 実践の主旨

森町では、町内の全ての教職員の資質の向上を図り、児童生徒に確かな学力を身に付けさせるために、授業改善推進チーム活用事業を軸とし、町内の3つの小学校（さわら小学校、森小学校、鷺ノ木小学校）を中心に日常的な授業改善を推進することで、その成果が町内の全ての学校に波及するよう取り組んでいる。

とりわけ、本校では、授業改善推進チーム教員を中心に全校で学習規律の徹底を図るとともに、全ての児童が主体的に学び、学力向上に直結する授業改善の取組を実践している。

II 実践の概要

各学級担任と複数体制で授業を実施し、机間指導による学習支援、児童への働きかけを行うとともに、全学級において授業改善を進めるため、授業改善推進チームの教員が示範授業を実施し、各学級担任に授業改善の具体を示すとともに、全校的な学習規律の徹底やICT活用を推進した。

1 学習規律の徹底

子どもが安心して学習を行うために、学習規律の徹底を図り、学習に集中できる環境を整えた。不要な物は机上に置かないなどの「学習のきまり」を児童と共有及び徹底することで、落ち着いた環境の下、熱心に学習に取り組むことができる児童の姿が見られるようになった。

2 ICT活用による視覚的支援

ICTを活用して視覚的な支援を行うことで、子どもの学習理解をより一層深めることができるよう、ICTの活用について示範授業で具体を示した。実際に授業改善推進チームの教員が授業で活用している場面を示すことにより、どのような場面で、どのように活用することが有効か明確になり、全学級がICTを活用し、学習内容等を視覚的に児童に捉えさせる授業を展開した。授業評価では、概ね全ての児童が「勉強がとて分かりやすい」と回答した。



【T1として授業を実施】

3 1単位時間で完結できる導入・展開・終末の時間配分の工夫

学習内容を確実に身に付けさせるために、1単位時間の指導過程を統一し、終末のまとめと振り返りの時間を確実に位置付けるようにした。導入場面では児童が主体的に本時の学習課題を捉え、試行錯誤の時間やまとめと振り返りの時間をより多く確保するようにしたことで、児童に学習内容の定着が図られるとともに、1単位時間で完結する授業が展開できるようになった。



【ICTを活用した視覚的支援】

III 実践の成果（○）と課題（●）

○ 授業改善推進チームの教員が授業実践の課題を把握し、学級担任と連携して授業改善を実施したことにより、主体的に学習に取り組む児童の姿がより多く見られるようになった。また、各調査等から、児童の学力が向上している様子が伺え、授業改善が学力向上につながっていることが考えられる。

● 単元やまとまりを通した授業改善を行い、全ての児童が概ね満足できる状況に達するよう、ねらいに基づく評価規準を踏まえて授業を組み立てることで、評価規準に基づく個に応じた指導を充実させるとともに、授業と連動した家庭学習への取組など、さらに学力向上を図る必要がある。

授業改善推進チームによる授業改善に向けた取組

枝幸町立枝幸小学校、枝幸町立歌登小学校

1 実践のポイント

(1) 児童の学力向上を目指した取組

- 推進教員と各学校の教員による「単元計画表」の作成
- 家庭での学習習慣の確立に向けた取組

(2) 教員の資質能力の向上を目指した取組

- 授業実践振り返りシートの活用
- 各学校の実践を共有する「交流通信」の取組

2 実践の内容

(1) 児童の学力向上に向けた取組

○ 推進教員と各学校の教員による「単元計画表」の作成

各学校における教科の単元計画を見直すため、推進教員と各学校の教員が、令和2年度小学校教育課程編成の手引（道教委）の「授業づくりの基本」を参考に、「身に付けさせたい力」及び「指導計画（学習活動、評価計画）」を位置付けた「単元計画表」の作成を共同で行っている。

「単元計画表」には、目標及び指導事項を踏まえた学習活動、評価規準を明記し、実践を通して改善を図っている。

また、「単元計画表」をもとに作成した児童用の学習活動の計画表を教室に掲示し、単元の導入で児童に学習の見通しをもたせるなど、指導に生かしている。

○ 家庭での学習習慣の確立に向けた取組

各校で、定期的に実施している「家庭学習がんばり週間」の取組の充実を図るため、児童用「家庭学習がんばりカレンダー」を作成した。カレンダーは事前に児童が設定した目標と取組結果を比較できるようにしているため、各学級担任は児童への個別指導や家庭との連携に活用するなどして、学習習慣の確立に向けた取組を推進している。

	単元名	絵文字の特長をとらえよう	
教材名	絵文字で表そう		
単元の目標	比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解して使うことができる。（2イ） 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（Aオ） 言葉がもつ良さに気付くとともに、幅広く読書し、国語を大切にしたい思いや考えを伝えあおうとする。		
身に付けさせたい力	身の回りの絵文字について、当てはまる特長を考えて、説明する文章を書くことができる。		
学習活動	絵文字を作るために、グループで役割を決めて話し合う。		
観点別評価規準			
知識・技能	比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し、使っている。		
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。		
主体的に学習に取り組む態度	進んで、目的を意識して課題を決め、学習の見通しをもってグループや学級全体で話しあおうとしている。		
学習計画表			
時間	目標	学習活動	評価計画
1	単元を通じた学習の見通しをもつことができる	・単元の見通しや目的を確認する。 ・単元を通して身に付ける力の確認をする。	・単元における話し合いの目的や進め方を確認し、具体的な内容を「話し合いノート」に記述している。
2	話し合いの目的や進め方を確認し、内容を具体的に決めることができる。	・話し合う具体的な内容を決定する。 ・話し合うための役割を確認し、シナリオを準備する。	【思考・判断・表現】

【作成した「単元計画表」】

(2) 教員の資質能力の向上に向けた取組

○ 授業実践振り返りシートの活用

各教員が授業実践を振り返り、改善を図ることができるよう、令和2年度小学校教育課程編成の手引（道教委）の「授業づくりの基本」及び宗谷管内学力向上推進会議の「授業改善の5つのポイント」を参考に、各校の実態を踏まえた「授業実践振り返りシート」を作成した。各学校では、推進教員と学級担任は本シートを活用して定期的に実践の成果や課題について振り返り、授業改善に生かすなど、検証改善サイクルの確立に向けた取組を進めている。

○ 各学校の実践を共有する「交流通信」の取組

各学校における学力向上に効果的な授業実践や研修内容をまとめた「交流通信」を適宜発行し、校内研修において、取組の詳細を説明したり、実際に演習を行ったりするなど、授業改善や授業力向上に活用している。

3 実践の成果（○）と課題（●）

- 「交流通信」での情報共有や、「単元計画表」の作成を行うことにより、各教員が学習指導要領の目標や内容を踏まえた単元の目標を適切に設定できるようになり、児童の発達の段階を踏まえた授業改善につながった。
- 「単元計画表」を活用した授業改善を効果的、効率的に推進できるよう、様式や方法について全教職員で共通理解を図る必要がある。

授業改善推進チームの効果的な活用 ～配置校及び連携校教員と推進チームとの協働による授業改善～ 小清水町立小清水小学校 学級数 12 (校長 可児 隆洋)

1 はじめに

近年における急速な世代交代に加え、多忙化や教員同士の同僚性の希薄化により教員間の知識・技能の伝承やきめ細やかな実践指導に課題が見られる。

特に本校においては、少子化による単学級・多人数学級化が進んでおり、教員個々に質の高い指導力が求められることから、授業改善推進チームの効果的な活用により、教員の指導力向上及び授業改善の取組を進めた。

2 実践の概要

教員個々の指導力の向上を図り、学校全体で授業改善を進めていくために、次の(1)～(4)の4つの取組を展開している。

(1) 授業改善の視点の統一

学校全体で共通した授業の基本スタイルを確立するため、道教委作成の「令和2年度小(中)学校教育課程編成の手引」に示された「授業づくりの基本」を基に授業改善の視点を定めた。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、情報共有シートをチーム員と各学級担任が共有し、授業後の打合せにおいて授業づくりの視点を明確にするとともに、次時の授業改善への具体的な方策を検討するなど、視点を明確にした授業改善を図った。

授業づくりの視点	実践の概要
① 単元・単元構成	単元(題材)を見通して、身に付けさせたい力を明確にし、評価目標を設定している。
② 単元・単元構成	評価目標に基づき学習活動を、単元全体を通してバランスよく展開している。
③ 単元・単元構成	児童の学習状況を評価目標に基づいて見取っている。
④ 単元・単元構成	1 単元時間内で完結できる導入・展開・結末の時間配分をしている。
⑤ 単元・単元構成	本時のねらいに定めた学習活動を展開し、評価目標との関連を図っている。
⑥ 単元・単元構成	教科書の構成を踏まえ、教材研究をしている。
⑦ 単元・単元構成	本時のねらいに基づき、発問や指名の要領を明確にしている。
⑧ 単元・単元構成	授業のねらいに基づき、児童の学習状況を把握し、評価目標との関連を図っている。
⑨ 単元・単元構成	授業や学習活動で活用できるノート指導をしている。
⑩ 単元・単元構成	学級を互いに学び合う学習集団に育てている。
⑪ 単元・単元構成	児童や教員間の学び合いを促進し、授業改善を推進している。
⑫ 単元・単元構成	学級環境として教師の活動を整えている。

【推進チーム作成資料】

(2) 授業改善に係る検証改善サイクルの確立

授業改善推進チームによる巡回サイクルを短期的なPDCAサイクルとして捉え、チーム員が各学級担任の指導状況及び課題を話し合い、各学級担任と授業改善に向けた打合せを行い、日常的に学校の現状と課題を共有している。

打合せ(前週) 一状況確認及び授業改善の視点
チーム来校週間 一学級担任と協働した授業改善
次の来校に向けた検証・協議
チーム不在週間 一新たな課題に対する授業実践

各学級担任は、授業のねらいや学習活動等、自身の指導を客観的に振り返ることで、日常の授業改善の充実が図られた。

(3) 学校全体で授業改善を推進するためのシステムの構築

学校全体で統一した授業改善の視点について、具体的な取組を互いに交流し、共有することにより、授業改善及び学級経営の充実を図っている。

① 学習・生活規律の徹底

チーム員によるミニ研修会等を通して、具体的取組内容や目標指標について共有化を図ったことにより、学校・学年で統一した授業ルールの設定や児童一人一人に配慮した教室環境の整備等、日常の授業や学級経営の充実を図った。

② 単元構想メモ

単元構想メモを作成し、各時間のねらいや単元を通して児童に身に付けさせたい力を明確にするとともに、単元全体の文脈や授業のつながりを意識した学習活動を進めることができた。

また、単元全体の流れを児童と共有することにより、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるなど、学習への意欲の向上につながった。

【単元構想メモ】

(4) 授業改善の成果の共有



【推進チーム通信】

推進チームが作成した「ぐるぐる通信」を通して、各学級担任の授業改善に向けた取組を学校全体で共有するとともに、他校の実践を共有し、各教員が自身の課題や必要感に応じて活用するなど、指導の一層の充実を図っている。

3 取組の成果・課題

- 授業改善推進チームを活用した配置校及び連携校の教員との協働による授業改善を進めたことにより、教員個々の指導力向上及び学校全体による取組の推進を図ることができた。
- 管理職及び教務主任、研修主任が、各配置校及び連携校における教員と推進チーム員との連携強化に努める必要がある。

授業改善推進チーム活用事業終了後を見据えた持続可能な取組の充実

大空町立女満別小学校	学級数	16	(校長 関谷 正樹)	推進教員	上野さえ子)
大空町立東藻琴小学校	学級数	9	(校長 中村 厚志)	推進教員	尾中 基浩)
網走市立南小学校	学級数	15	(校長 佐藤 雅美)	推進教員	今井 由香)

I 実践テーマの趣旨

大空町・網走市授業改善推進チーム（以下、推進チーム）は、3年間の取組を通して、各学校の特色に合わせた推進チームとの連携により多くの取組を実現してきた。今年度は、事業終了後を見据え、これまで取り組んできた実践を継続することができるよう、推進チーム「だから」できるのではなく、既存の校内体制「でも」持続可能な取組の充実に取り組んだ。

II 実践の内容

推進チームのこれまでの取組を整理し、各分掌が推進チームと共に取組を推進したり、授業改善を促すシステムを構築したりするなど、次年度以降も学校全体で授業改善が図られるよう組織的な取組を展開した。

1 分掌等との連携

- ・教務部が、推進チームとの打合せに基づき、各学校の実態に応じて学習規律を統一しスクールガイドを作成
- ・研修部が、推進チーム通信の内容に基づき各学校の実態に合わせて研修通信を発行

2 日常的な授業改善を促すシステムの構築

- ・研修部と推進教員が、「教育課程編成の手引」（授業づくりの基本）に基づいた授業改善について通信を発行
- ・学級担任と推進教員による「教育課程編成の手引」（授業づくりの基本）に基づいた事前打合せ及び振り返りの実施

3 全教職員の意識改革

- ・研修部が、推進教員を講師とした実技研や学習会を実施し授業改善の必要性を学校全体で共有
- ・研修部が、研究主題に基づいた推進教員による提案授業を設定し、授業改善の具体的なイメージを共有
- ・初任段階教員と推進教員が、他校の研修会と一緒に参加し、研修の内容や意義について理解等を共有



【学習規律の徹底・継続】

III 実践の成果と今後に向けて（○：成果 ●：課題）

- 各分掌が、推進チームとの連携を図り、推進チームの取組を共に推進したことにより、各学校において、授業改善に向けた取組のベクトルが一つになり、学校の組織的な取組に結び付けることができた。
- 各学校の管理職が、推進チームと毎月の重点に係る具体的な取組内容を共有したことにより、推進チーム不在時においても取組を推進することができた。
- 学級担任と推進チームが、「教育課程編成の手引」（授業づくりの基本）に基づいた事前打合せや振り返りを検討したことにより、全ての推進校において「学校全体で、単元（題材）を見通して、身に付けさせたい力を明確にし、評価規準を設定している（情報共有シート：観点5）」を達成することができた。
- 各学校が、次年度以降確実に授業改善に係る取組を継続することができるよう、これまでの推進チームの取組を分掌業務として整理したり、各学校の経営方針等に反映したりする等、学校組織の強化を一層図る必要がある。



【授業後の「振り返り」の様子】

『音更町授業改善推進チーム』の授業実践について

音更町立木野東小学校	学級数 19	(校長 小松 淳一)
音更町立音更小学校	学級数 17	(校長 沼田 拓己)
音更町立柳町小学校	学級数 11	(校長 伊藤 道彦)

I はじめに

平成30年度より、音更町内で「授業改善推進チーム事業」が始まり、現在は3校の取組となっている。3名で構成される「音更町授業改善推進チーム」は、低・中・高学年の学年を固定して指導に当たり、学級担任と連携して国語科と算数科の授業改善を推進している。

今年度は、学習指導要領の主旨を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の実現を目標に掲げ、令和2年度北海道教育委員会発行の「令和2年度小学校教育課程編成の手引き」に記載されている「授業づくりの基本～5つの視点～」の中から、視点2、3、4の3つの視点に重点を置いて実践を行っている。

II 授業改善の実践

1 『ねらい』から『まとめ・振り返り』までの1単位時間のデザイン（視点2）

学年・学級の実態を踏まえて、学習指導案の提案や学級担任との役割分担、事前・事後の打合せ、資料の作成等に関わりながら1単位時間のデザインを行っている。また、初任段階教員には、授業改善推進チームによる授業後の感想、指導と評価の一体化等について、次時に向けた指導・助言を丁寧に行っている。



【視点2】

2 「全ての児童の学習を深める授業技術」（視点3）

導入における既習内容の振り返りや課題解決の過程などでは、学級担任と授業改善推進チームが連携し、ICT機器やデジタル教科書を活用し、重要な学習内容を明示している。

また、学級担任の授業技術の向上を目指して、授業改善推進チームが本時のねらいに即した導入や発問、児童のノートを実物投影機で提示する「思考の見える化」等を取り入れた模範授業を行い、児童の思考が相互に分かるようにしている。



【視点3】

3 「全ての児童が落ち着いて取り組める学習環境」（視点4）

各校では、学習環境の整備や学びの基礎・基本となる「授業のルール、学習規律（話の聞き方や発表の仕方、姿勢、机上の学習用具等）」の徹底を進め、落ち着いて学習できる環境を整えている。

そこで、週1回授業改善推進チームが発行している通信において、授業実践例や教育的課題の他、各校での学習環境・規律に係る取組を紹介し、好事例の還元に努めている。

III 成果と課題

- 1単位時間で完結できる導入・展開・終末の時間配分を意識することで、ねらいからまとめ・振り返りまでの学習活動を展開できるようになった。（視点2）
- 本時のねらいや学習内容に合わせて、ICT機器を効果的に活用できるようになった。（視点3）
- 学級担任が学習環境の整備に努めるとともに、学級を「学び合う学習集団」に育てようとする意識が高まり、児童及び授業と向き合う姿勢が向上した。（視点4）
- 児童に身に付けさせたい力の明確化を図るため、本時のねらいと評価規準、学習活動の関連を図りながら授業を構想する必要がある。
- 授業の終末において、児童が自らの学びを振り返り、次時の学びへとつなげられるよう、学びの足跡がわかる板書、児童へのノート指導を充実させていく必要がある。



【視点4】